

## 全国風穴小屋サミットに参加して

建設部門 嘉藤 剛

地域振興研究分科会は昨年度から八雲風穴を研究していますが、お恥ずかしい話、私は八雲以外の風穴をよく知りませんでした。今年度は、どこか他の風穴も知って見てみたいと思っていたところ、それにうってつけのイベントが開催されることを知りました。それが「第1回全国風穴小屋サミット」でした。初回ということなので開催地が長野県といささか遠いとはおもいましたが、うってつけの機会だと思い参加いたしました。

### ・長野県で開催されたわけ

私は風穴といえば、それまで八雲風穴・富岳風穴（山梨県）、中山風穴（福島県）、世界遺産になった荒船風穴（群馬県）を知っている程度でしたが、

長野県の風穴は知らなかったため、なぜに長野県？

とっていました。しかし、参加して手に入れた

全国風穴小屋マップをみると、第1回目が長野県で

開催される理由がよくわかりました。風穴小屋が長野県内と周辺に非常に多く、この地で開催されることに合点が

いきました。また、地図によると西日本には確認されている風穴は少ない上に、

見学が可能な風穴小屋はさらに少なく、八雲風穴が貴重な存在であるということが

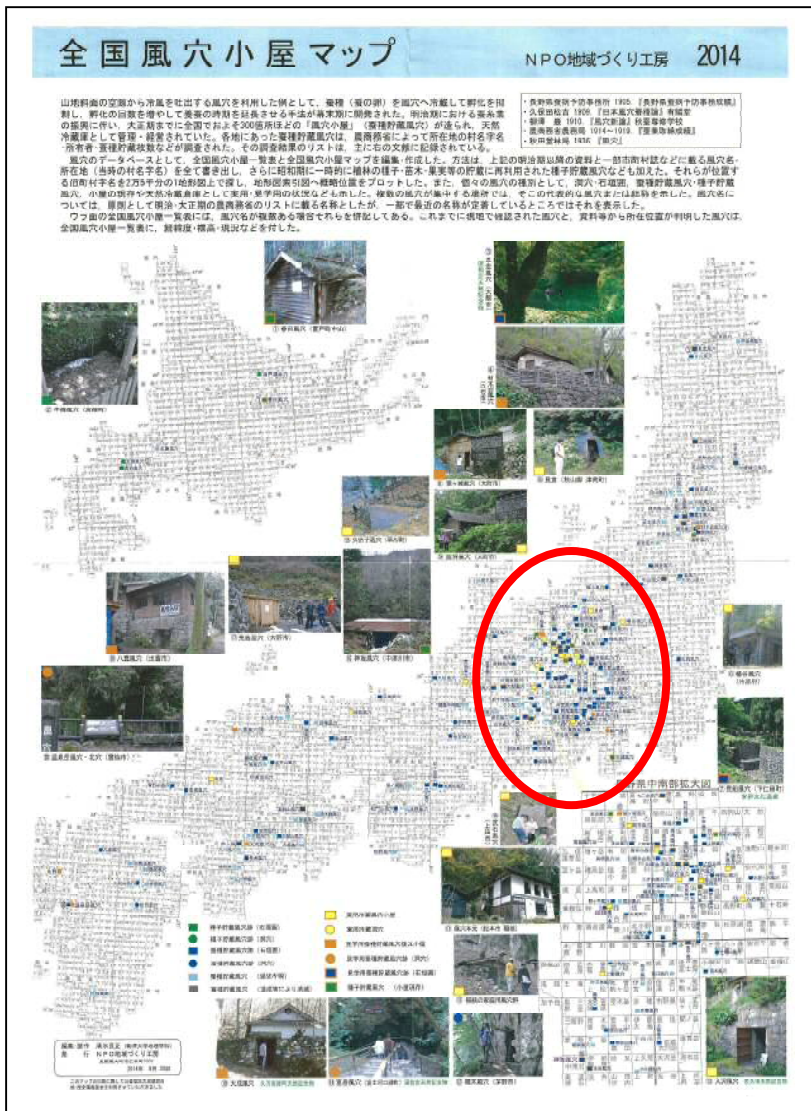
わかります。

資料1)風穴小屋マップ

NPO 地域づくり工房

URL

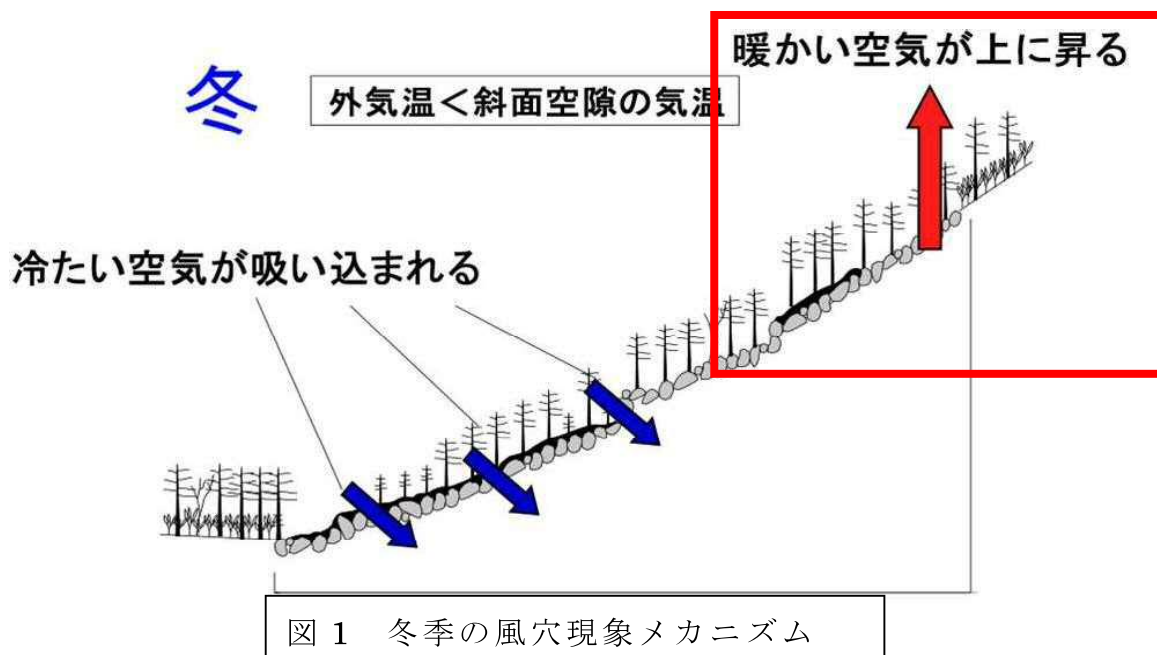
<http://npo.omachi.org/>



資料1 全国風穴小屋マップ

## ・ 解き明かされている風穴現象の謎

本会が、地域振興に向けて八雲風穴に貢献できると考えていることのひとつに風穴現象の謎の解明がありました。これは、文献も少なく中々難しいことではないかと考えていました。しかし、全国には熱心な方がいらっしゃりすでに解明されておりメカニズムについての話を聞くことができました。また、八雲風穴の現象のメカニズムについても見通しを立てておられ、やはり八雲風穴にも冷風穴に対する温風穴が存在するらしく、今後はそれを確認することがメカニズムを証明できることとなります。



## ・ 風穴の現在の利用状況

全国風穴小屋サミットでは、風穴の利用と現状について話がなされました。風穴現象は古くから知られており記録では、江戸時代中期に天然冷蔵倉庫として漬物保存に利用されていたようです。その後荒船風穴に代表されるように製糸業の発展に貢献する蚕種の貯蔵庫として全国的に利用されていましたがその衰退とともに利用の場は、種子や苗木の保存等に変化していきました。現在では、夏季のクールスポットや文化財としての観光スポットとしての利用、人家近傍での野菜・果実等の保存、酒や醤油などの調味料の熟成冷蔵に利用されているとのことでした。

今後の利用方法としては、実用冷蔵倉庫としての利用拡大に加え停電等の影響を受けない点でDNAの低温貯蔵としての利用という現在の最新技術を支える施設としての利用へのアイデアも出されていました。さらには人工風穴の開発も実現可能ではないかという話もなされ、風穴は天然クーラーとして、これからの社会にも価値のあるものだと再認識させられました。



写真 1 風穴利用一例（酒貯蔵）



写真 2 家庭冷蔵利用風穴群

### ・八雲風穴以外の風穴へ

今回、自分は初めて、八雲風穴以外の風穴小屋を訪れました。大町市の南鷹狩山の峠道に位置する「鷹狩風穴」と呼ばれる復元された風穴小屋で、現在は天然冷蔵倉庫として酒の貯蔵熟成に利用されているところでした。地形的には急斜面下の崖錐斜面にあり、八雲風穴を似た感じでしたが、近隣に水の存在はありませんでした。その影響か、八雲風穴と違い小屋の中であまり湿気を感じませんでした。地域、地形条件により風穴小屋でも、いろいろと違いがあるようなので、今後も他の風穴小屋の様子を知りたいと感じました。



写真 3 鷹狩風穴小屋外観



写真 4 鷹狩風穴小屋上方斜面

### ・風穴への熱い想いと人のつながり

風穴小屋サミットに参加された皆さんは、それぞれが自分の地域にある風穴を宝物と考えておられ、それをどのように生かしていくか熱心に考えられ発表され、熱心な議論が交わされました。また、サミットの参加者も予想を超える人が来場され、決して現在メジャーではない風穴小屋への関心の高さが伺われ、このサミットを主催者の一人でもある清水長正先生も、一日にこ

れだけ風穴という言葉が飛び交った日はないと感激されていました。  
そんな風穴に対する熱い想いを披露された全国の皆さんでしたが、それを身近な人で感じることができました。それは「八雲風穴」を管理する「風太郎」の方々の、なんと7名もの方がこのサミットに参加されていました。しかも参加のオファーがサミット開催の数日前にあったということで正直、島根から参加してるのは自分ひとりだと思っていましたので、これには衝撃を受けました。そしてもう一つ衝撃が、風穴を研究されている先生が、福山大学にいらっしゃるという事、このただならぬ縁と熱い想いが更なるサプライズを生むこととなります。



写真 5 風穴小屋サミット開会式



写真 6 サミット虫の発表状況

#### ・そして2回目は出雲へ

今回の全国風穴小屋サミットへの参加は、風穴を知る上で大変勉強になり、遠くまで行った甲斐のあるものでした。次の開催は、何時、何処でされるのかという話が、サミットの夜の懇親会で話になりましたが、次回はなんと「出雲市」となりました。これは、「風太郎」の代表である勝部氏の熱い思いにより決定したことです。そして地域振興に向けた取り組みについてさらに勉強となったことがありました。それは、まず「行動」、ということです。実際に第2回の風穴小屋サミットは8月末の開催に向けて、その取り組みは動き出されており、その情熱・行動力を今後も引き続き学びたいと思います。